

同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局
School of Health Sciences, Shinshu University
第13号 2015年10月



—目次—

川上由行先生 同窓会会長の挨拶	2
山沢清人先生 学長のご挨拶	3
金井誠先生 同窓会名誉会長のご挨拶	4
新入教員のご挨拶	5
夏期海外研修報告	8
平成26年度活動報告	11
総会記録	13
平成26年度事業報告	13
平成27年度事業計画	14
同窓会役員	15
信州大学医学部保健学科同窓会会則	15
編集後記	16

2015
第13号

耐震改修工事が竣工した校舎に新入生が入学してきました!

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行
(信州大学名誉教授/医学部特任教授(研究))

2015年3月、北および中校舎の耐震改修工事が竣工しました。そして4月、新しくなった保健学科校舎に、保健学科13期生、大学院博士前期課程9期生、そして博士後期課程7期生を迎えて新年度が始動しました。中校舎と北校舎との間には、学生たちのための憩いのスペースが新たに設けられ、そこに談笑する学生たちの姿を散見することが出来、少しは大学らしい環境が整ってきたことが感じられます。

また、中校舎の正面附近の大きなヒマラヤスギの根元に建立されていた「信州大学医療技術短期大学部」と銘記されていた石碑は、「信州医学部保健学科」に彫り直されました。石碑の下段には保健学科の前身の学び舎が此処にあったことを偲ぶ縁として「旧 医療技術短期大学部」と彫り加えられています。

でも、遙か昔に取り壊された各種学校時代の「看護学校」「助産婦学校」「衛生検査技師学校」の学び舎など、看護師、助産師、衛生検査技師、臨床検査技師教育発祥の地を偲ぶものは既に何もありません。そんな嘗ての劣悪な教育環境の中を巣立っていった各種学校時代の卒業生の多くは、そしてそれに続く医療技術短期大学部の卒業生たちは、切磋琢磨の日々を経て全国の医療機関等で重責を担いそれぞれに活躍されています。

信州大学におけるコメディカルのための教育研究は、嘗てとは比較にならない充実した環境の中、医学部保健学科、大学院医学系研究科保健学専攻の教育研究体系の中にしっかりと引き継がれていることを実感します。

地域保健推進センターは、保健学科同窓会(現任教職員を含む)を基盤とする「地域保健推進センター設置基金管理組織」の多大な関与が求められる中で設立されました。同窓会員諸氏からの寄付金は大切に使われると同時に、「地域保健推進センター」入り口附近のパネルにお名前を銘記させていただいております。ぜひ、母校へおいでの際には新たに設置された、金井保健学科長をセンター長とする「地域保健推進センター」を実際にご覧になって下さい。

地域貢献の拠点形成と教育・研究環境狭隘化の改善を目的として産声を上げましたが、既に幾つかのテーマ、シリーズで本学教職員のみならず地域住民にも門戸を広げた研修会が開催



されるなど、教育研究機関としての存在意義の「可視化」や、『大学のCenter of Communityとしての機能強化と、地域が抱える課題解決に向けた取り組みを行う中で得た知見の教育・研究への反映と教育研究の機能強化』を保健学分野で具現化するための活動が展開されてきています。

同窓会員の皆様には、今後の「地域保健推進センター」における活動の進展を見守って下さるようお願い申し上げます。

これからも、保健学科同窓会は、成長し続ける母校保健学科、大学院保健学専攻の更なる発展のための支援活動を展開していきます。また、信州大学同窓会連合会の構成員として、また信州大学校友会の構成組織会員として、さらには、信州知の森基金後援会の構成員として、これからも母校信州大学と共に歩んでいきます。

国立大学の法人化以降、運営費交付金が年々削減されるなか、少ない教育・研究費や教員定数削減を克服しながら、保健学科の教員の先生方には、ますます「学生の魂を揺さぶるような講義」をし、「人間の根幹に触れるような話」をし、「次代の日本を背負ってたつ人間性豊かな人材の育成」をお願いいたします。

学生諸氏が「信州大学医学部保健学科・大学院医学系研究科保健学専攻で学んでよかった!」と思われる教育を享受できるように、保健学科同窓会は出来る限りの応援をしていきます。

信州大学医学部保健学科同窓会会報 学長のご挨拶

信州大学 学長 山沢 清人

信州大学医学部保健学科同窓会の皆様には、平素より信州大学の教育研究にご支援を賜り、誠にありがとうございます。

本学はかねてより地域貢献を大学の目標に掲げて教育・研究に取り組んで参りましたが、昨年は日経グローバル誌が実施している「全国大学の地域貢献度ランキング」で、平成24年から3年連続で1位を獲得し、地域貢献の面で高い評価を受けた年となりました。

保健学科に関して言えば、平成26年4月に保健分野での地域貢献の推進等を目的とした「地域保健推進センター」が設置され、現在までに多数のセミナーを開催しています。このセンターは、保健学科を中心として医学科、医学部附属病院、バイオメディカル研究所（平成26年3月設置）等との学内連携はもとより、様々な地域連携、社会連携を構築することで、関連機関・地域住民等との多様な連携に基づいた地域保健活動の推進を目指して設置されました。今後は活動の幅を広げ、更に地域貢献に寄与していきたいと考えております。

さて、現在国立大学には我が国が直面している厳しい困難を克服し、卓越した人材を育成することが求められています。本学では、平成24年3月に「信大改革」の8つの工程を定め、スピード感のある改革を実施しているところです。

1. 学術研究院(教員組織)の設置
2. 先鋭領域融合研究群の設置
3. 学士課程教育の再編・強化
4. 信州大学型初年次教育方法の強化
5. 大学院課程の改革整備
6. 教員の人材育成システムを導入
7. 職員の人材育成システムを革新
8. 多分散キャンパスの運営連携システムの効率化

学術研究院組織、先鋭領域融合研究群については発足から1年が経過しましたが、これまでの学部という枠を越えた新しい教育研究の方向性や研究支援体制の構築に向けた素地として、今後更に機能していくものと考えています。

学士課程教育の再編・強化の点では、我が国の将来を担う人材を育成するため、教育研究組織の見直しに取り組んでいますが、教育組織改革の第一弾として平成27年4月に理学部・農学部の改組を行いました。平成28年4月からは大学院修士課程に総合理工学研究科が設置されることも決まっております。

分野を超えた教育・研究を推進していきます。

また、本学では平成23年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、事業終了までの3年間に、女性教員



比率の向上等を目標に掲げ、女性研究者支援室を設置して研究支援体制の確立や意識啓発活動、女子学生のキャリア形成支援等の取り組みを行って参りました。

このたび、これらの取り組みの事後評価として最高評価の「S」評価をいただきました。これは、本学の取り組みが高く評価された結果です。

平成26年度からは女性研究者支援から男女共同参画推進へと取り組みを発展させているところですが、今後も性別にかかわらず、教職員、学生一人一人がその能力と個性を發揮できるよう、大学全体で進めていきたいと思っております。

最後になりましたが、平成26年3月に立ち上げられた校友会についてご報告させていただきます。「校友会」とは信州大学と卒業生・修了生、在学生、元教職員、教職員、課外活動団体及び各同窓会といった本学関係者の皆様との連携強化(交流促進、相互支援、最新情報共有化など)を目的として設けられた「交流の場」でございますが、平成26年8月には設立記念式典と記念講演会を開催いたしました。当日は約130名の皆様にお集まりいただき、経済学部卒でテレビドラマプロデューサーの中島久美子氏にご講演いただくなど、盛会のうちに終了いたしました。今後も関係の皆様と共に信州大学を発展させていけるよう、校友会で絆を深めて参りたいと思っております。

以上の通り、本学が国立大学に求められる役割を果たし、信大改革を確実に実現していくため、教職員一丸となって日々取り組んでおります。信州大学の更なる発展を目指して努力して参りたいと思っておりますので、信州大学医学部保健学科同窓会の皆様にも、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会の皆様へ

信州大学医学部保健学科同総会名誉会長 **金井 誠**
(信州大学医学部 保健学科長／看護学専攻 小児・母性看護学領域 教授)

保健学科同窓会の皆様には、平素より在校生の教育および学科運営に多大なご理解とご支援をいただいております。この場をお借りして心から御礼申し上げます。

信州大学医学部保健学科校舎耐震改修・地域保健推進センター設置事業は、平成25年度に北校舎の改修と北校舎に隣接した地域保健推進センターを増築した後、平成26年度に中校舎の改修工事を無事終了し、当初の目標を大方達成することができました。これも同窓会をはじめとする、多くの団体と個人の皆様方から、多大なるご支援を賜ることができたおかげであり、重ねて感謝申し上げます。頂戴いたしました御芳志は、学生の教育・研究設備等の整備・充実のために活用させていただきました。学生達も、心待ちにしていた新しい校舎での講義、実習・演習、実験、研究、学生生活を満喫しており、教育環境の充実を大変喜んでおります。本事業の概要は、本年6月に送付させていただきました事業報告書をお目通しいただきたく存じます。ご来校いただいた際には、是非とも新しい校舎や地域保健推進センター、中庭などをご覧いただければ幸甚です。

昨年は地域保健推進センターの設立記念式典を挙行し、文科省をはじめ、多くの市町村、医療・福祉機関、大学、関連職能団体から、そのほとんどで組織のトップの皆様方にご臨席を賜りました。これも本センターおよび保健学科への期待の表れと感じております。センターの活動としては、市民が参加できる健康講座を、昨年秋に「健康寿命延伸を目指して」というテーマで10回の講座として行いました。毎回非常に好評で、「ありがたい。ためになった。」「またやってほしい」という意見が目立っていました。今年度も引き続き、5月から7月にかけて「災害と健康」をテーマとする4回開講の春期プログラムを開催し、4回開講の

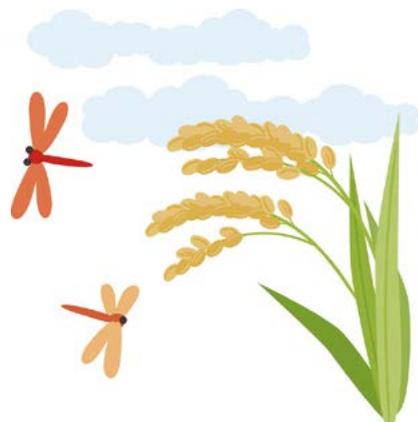
秋期プログラムも予定しています。

また、昨年は保健学科と附属病院看護部とが主体となって、文科省・課題解決型高度医療人材養成プログラムに申請した『実践力ある在宅



療養支援リーダー育成事業』が採択され、平成26年度から5年間の事業をスタートさせております。今後、益々必要性が高まる在宅療養の支援リーダーを育成する上で、難病・がん・重症児など、これまで不足していた新たなニーズに対応し、在宅療養で質の高いケアを提供する看護師の育成を目指す事業です。本年6月に第1期生の開講式を挙行し、2年間の教育プログラムを2期生まで実施する予定で、これも国や多くの関連施設から大きな期待を受けている事業です。

以上のように、保健学科では毎年新たな取り組みを積極的に展開しており、さらなる発展に尽力していく所存です。同窓会の皆様方には、一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。



新入教員のご挨拶

自己紹介

池上 俊彦

(看護学専攻 成人・老年看護学領域)

はじめまして、池上俊彦と申します。この4月から寺田克前教授（長野県立須坂病院院長として転出）の後任として医学部保健学科看護学専攻成人・老年看護学でお世話になっています。



私は東北大を卒業後盛岡市内の病院で3年間外科研修の後、昭和62年に信州大学医学部第一外科に入局、平成2年に開始した肝移植に第1例目から関わってきました。平成16年からは信大病院の医療連携や患者相談を担う医療福祉支援センターの副センター長として（平成24年からセンター長）県内外の様々な医療機関の連携室や相談室の方々と関わりを持たせていただくとともに、医療福祉支援センターへの患者図書室、入院支援室の設置にも関わってきました。また、全国の国立大学病院連携部門の有志と共に日本医療連携研究会の設立に携わってきました。

保健学科に移動した当初は、状況の変化に大分戸惑いましたが、周りの方々の温かいご指導の御陰で大分慣れて参りました。私は学生教育を通じで常に探究心を忘れない医療技術者の育成に微力ながら専心して参りたいと思います。

歴史のある本学科同門の方々には、これから何かとお世話になると思いますが、宜しくご指導賜りますようお願い申し上げます。

自己紹介

會田 信子

(看護学専攻 成人・老年看護学領域)

本年度4月に老年看護学の教授として着任致しました。美しい山々に囲まれた長寿県・信州の活気あるキャンパスで、教育・研究等にたずさわれる喜びを感じております。



私が看護学教育に携わるようになったきっかけは、前々校の看護部長兼看護学部長から、「自信と誇りをもった看護職の育成を」とのご指導をいただき、修士課程修了後、大学病院の看護師（心臓血管外科）から看護学部の教員に異動したことに始まります。

看護系大学が、毎年、10校ずつ開講されていく目まぐるしい状況の中、教育も研究も経験ゼロの不安ばかりの毎日でしたが、諸先輩・同僚・学生らとともに、これからの看護学を構築していく希望と責任を抱きながらの20年間でした。

学生時代、日本に4校あまりしかなかった看護系大学は、私が教員になった平成7年には40校、博士後期課程を修了した平成14年には96校、そして、昨年度の平成26年には234校となりました。看護学教員の量的確保もさることながら、学部・大学院教育の質保証などの沢山の課題が山積しています。本学においても、看護学専攻の先生方と一丸となって、地域から求められる、社会に貢献していける大学を構築していけるよう努力していく所存でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介

上原 文恵

(看護学専攻 基礎看護学領域)

4月より基礎看護学領域の助教に着任いたしました。松本生まれ、松本育ちの私は、高校時代、親に信州大学に進学する事を勧められましたが、一人暮らしに憧れを抱き、他県の看護大学に進学しました。結局、故郷恋しさのあまり、長野県で就職しましたが、まさか、地元の信州大学に勤務するとは高校時代の自分からは想像がつかなく、驚いている所存であります。



私は、4年間、看護師・保健師として病院で、6年間、非常勤実習助手として教育現場で勤務してきました。臨床では看護をする楽しさと大変さ、教育現場では看護を伝える事の難しさを感じつつも、看護職として働ける事に喜びを感じながら過ごしてきました。看護は患者さんの命を扱う責任ある仕事で、大変さはもちろんですが、そこには楽しさがあります。学生が学内での学習を踏まえ、実習に臨み、看護って楽しいなあと思ってもらえるような教育を心がけていきたいと思います。

家庭では、3歳と1歳の子どもを持つ母親でもあります。仕事と家庭の両立は大変ですが、職場の理解と家族の協力のもと、心地よく働いています。この環境を大切にしながら、日々、努力していきたいと思っています。今後とも、よろしくお願い致します。

自己紹介

鈴木 敦子

(看護学専攻 小児・母性看護学領域)

今年度4月より、小児・母性看護学領域の助手として着任致しました鈴木敦子と申します。

本学を卒業後、神奈川県のある大学病院に助産師として勤務し、この度こちらに勤務させていただくこととなりました。



た。大学在学中は、勉強・部活・バイトと充実した学生生活を過ごすことが出来、いつかまた松本に戻ってきたいなと思っておりました。また、社会人となり勤務を始めてから、自分自身が学生時代に大変恵まれた環境の中で学ぶことが出来ていたのだと実感していました。母校に戻り、教育に携われることにとっても感謝しています。

臨床現場で勤務し、妊娠・出産・育児期の女性のライフスタイルの変化に関わる中で、助産師の役割の大きさを日々感じていました。ひとそれぞれの妊娠・出産があり、生命誕生の瞬間に立ち会うこともあれば、残念ながら悲しい出産を迎える産婦さんに寄り添う瞬間もありました。

今はまだ至らない点も多く、諸先生方にご指導いただいているところですが、少しずつ慣れていき、臨床で学んだことを活かし、本学らしい看護教育に携わることが出来るよう努力を重ねていきたいと思っておられます。どうぞよろしく願いいたします。

自己紹介

丹下 めぐみ

(看護学専攻 成人・老年看護学領域)

この春より、成人・老年看護学領域に着任いたしました、丹下めぐみと申します。

以前は富山県の病院で看護師として働き、教育面では職員に対する急変時対応の研修や、看護学生の実習指導などを担当しておりました。臨床で様々な経験を積むうちに、これまで培った経験と知識を統合させ医療・看護への視野をさらに広げたいと考えるようになり、大学院へ進学しました。

大学院では救急医療・災害医療をテーマに研究活動を行いました。一般市民、医療従事者を対象とした心肺蘇生や脳卒中への対応を学ぶシミュレーション研修に携わったことで、“成人教育”という自分にとっては新しい分野に視野を広げる機会を得ました。学習者に対する動機づけ・方向づけや、経験から学ぶことの大切さを伝えることが学習の成果を大きく変化させることに気づかされました。こうした活動を通して、教育、中でも看護師の育成に従事したいという思いを強く抱くようになりました。

そんな折、昨年春に松本へ転居することとなり、ご縁あって9月から本学の成人看護学実習に教務補佐員として関わらせて頂いたことをきっかけに、この4月より着任させていただき運びとなりました。

教員として経験のない私を、この場に導いて下さり、温かく迎えて下さった皆様に感謝しております。これからも研鑽に励み、大学や地域に貢献できるよう努める所存です。今後とも宜しくお願い致します。



自己紹介

長野 則之

(検査技術科学専攻 病因・病態検査学領域)

平成26年9月1日付けで検査技術科学専攻、病因・病態検査学領域の教員として着任致しました長野則之と申します。不慣れな点多々ございますので諸先生方におかれましては種々ご指導賜ります様宜しくお願い申し上げます。



私は船橋市所在の船橋市立医療センターにて30余年の長きにわたり微生物検査に携わってまいりました。細菌の生物学的多様性と日々対峙する最前線にある細菌検査の担う役割は重要であり、従来の感染症はもとより新興再興感染症、多剤耐性菌感染症に加え、これから後出現し得るであろう未知の感染症に対応することが求められています。

このような状況のなか、複雑多様化する病原体、病原因子、薬剤耐性因子等の検出、解析を行い、診断や予防、治療、さらには感染制御につなげられるような実践的な医療技術者や研究者の存在が必須と思われれます。折しも本年9月には感染症法の一部が改正され、特に新型の薬剤耐性菌感染症が5類感染症の全数把握疾患として指定されました。

私の現在の研究は薬剤耐性菌を主体としており、これまでの経験を生かして耐性菌や感染制御の領域で長野県内の医療機関に少しでも貢献させて頂きたいと考えております。今日、輸送手段の発達によりメディカルツーリズムをはじめ世界レベルでの行き来が頻繁に行われるなか、新型の薬剤耐性菌や新興感染症などもはや決して対岸の火事とはいえない状況にあり、そのような臨場感あふれる教育の実践を心がけていきたいと身を引き締めております。

自己紹介

木村 文一

(検査技術科学専攻 病因・病態検査学領域)

5月より検査技術科学専攻 病因・病態検査学領域で勤務させて頂くことになりました。

私は検査研究所や総合病院で病理・細胞診断学の分野で長年現場での仕事をしてまいりました。仕事の傍ら、子宮体部類内膜腺癌、悪性中皮腫をはじめとする種類の癌症例に対してがん遺伝子、がん抑制遺伝子産生タンパクや細胞周期制御因子、細胞増殖因子の発現について研究を行ってきました。そしてそれらの研究の客観的評価方法を模索すべく工業系大学で画像解析に従事してまいりました。仕事の合間に行う研究は楽しくもあり、辛いこ



とも数多くありましたが、多くの諸先輩方や指導して下さいました先生方のお陰で少しずつ前進することができました。いままで教えていただいた方々に対する恩返しをする意味でも、信州大学の学生さんに対して微力ながら私が学んできたことを伝えていければと考えております。

長野は子供の頃から父の仕事でよく訪れていてとても懐かしい場所です。松本はとても町並みも綺麗で、自然環境がよく、山登りが好きな私にとっては最適な環境です。信州大学の伝統を学びつつ日々努めて参りたいと思います。若輩者ではありますが、よろしくお願い致します。

自己紹介

樋口 由美子

(検査技術科学専攻 生体情報検査学領域)

本年度4月に保健学科生体情報検査学領域に助教として着任致しました、樋口由美子と申します。本学医療技術短期大学部を卒業し、信州大学医学部附属病院中央検査部に勤務致しました。その頃は、奥村伸生先生（現保健学科教授）、日高宏哉先生（現保健学科准教授）、川上由行先生（信州大学名誉教授）、羽山正義先生（昨年度御退官）が、続々と現場から教育へと移られた時代でした。検査技師は検査技師が育てる、検査技師も学位を取得する、検査技師も留学する、そのような素晴らしい環境に影響を受け、私も本学社会人大学院医学専攻科、海外留学、学位取得と様々な経験をさせて頂きました。



その後は本学医学部附属病院先端細胞治療センターで、再生医療・細胞治療に6年間携わりました。これまでとは全く違う分野で、施設管理、加工技術、品質検査、研究等に従事し、検査技師の今後の可能性を十分感じることができました。

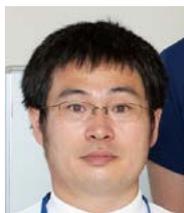
現在学生と共に学ぶ毎日が、とても新鮮に感じられます。私の経験を少しでも学生教育に生かせるよう、また自分自身が飛躍できるよう、研鑽を積んでいきたいと思っています。皆様方のご指導を受け賜われますよう、よろしくお願い申し上げます。

自己紹介

青木 薫

(理学療法学専攻 応用理学療法学領域)

平成27年5月より、理学療法学専攻の応用理学療法学領域に勤務させて頂くこととなりました。臨床では信州大学医学部附属病院で整形外科医として骨軟部腫瘍の治療を行ってまいりました。また、平成25年7月からは同院のリハビリテーション部所属となり、リハビリテ



ーションの処方、患者診察、技師の指導に従事してまいりました。

骨軟部腫瘍は四肢や体幹のあらゆるところに発生し、「肉腫」と呼ばれる骨軟部悪性腫瘍では、「腫瘍広範切除術」という腫瘍周囲に筋肉などの正常組織をバリアとして合併切除する手術が必要となります。そのため、切除される組織に応じて人工関節、筋・腱移行、筋肉移植などを機能再建として行うことがあります。しかし、手術による機能再建には限界があり、残った筋を利用して機能を補い、ADLを回復させるリハビリテーションが重要となります。

これまで骨軟部腫瘍患者の手術、リハビリテーションにより得た経験、知識を本学のリハビリテーション技師を目指す学生たちに伝えられたら、と考えております。

長野県のリハビリテーション医療の発展に貢献できるよう努めてまいります。よろしくお願い致します。

自己紹介

岩波 潤

(作業療法学専攻 実践作業療法学領域)

平成27年7月より保健学科作業療法学専攻で勤務させて頂くことになりました、岩波潤と申します。松本市の地酒である「岩波」を創る岩波酒造の息子かとお尋ねられますが、全くの無関係です。しかしながら馴染み深い酒の名を通して私の名前を憶えていただければ幸いです。



私は平成18年4月から平成23年6月まで松本市内の病院で急性期リハビリテーションに携わり、平成27年6月まで新潟の作業療法士養成校で教員として勤務しておりました。作業療法士という職業は非常に魅力的な仕事ではありますが、一般社会への知名度はまだ低い状態にあります。私の今までの経験や知識・技術を学生への教育に活かし、より質の高い学生を育成し社会へ送り出せるよう教育に邁進してまいります。

この度、地元である松本の信州大学で働くこととなり、大きな喜びを感じております。その一方で、国立大学の教員に求められるものに応えるべく大きなプレッシャーを感じております。今後は教育・研究・社会活動など幅広い領域で活躍できるよう、より一層努力してまいります。何卒ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

夏期海外研修報告

オーストラリア

カーティン工科大学短期海外研修に参加して 看護学専攻3年 村田 千愛希

今回2週間という短い期間ではあったものの、このプログラムに参加できたことで、とても多くのことを学ぶことができました。私は今まで海外に行ったことがなく、自分の英語力にも自信がなかったため、不安ばかりでしたが、終わってみると2週間はあっという間で、とても充実した日々を送ることができました。

看護については、日本にないようなものをたくさん見ることができました。特に印象的だったのは、大学の看護学専攻の施設内にある設備で、学生が看護の手技だけでなくコミュニケーションなど、実際に臨床に必要なことのすべてを練習することができる場があったことです。練習用の人形は、私たちが普段、大学で使っているものとは異なり、学生の処置が正しくできていないと本物の患者さんのように状態が変化するよう、教員のコンピュータによって設定できるようになっていました。学生は必ず実習に行く前にその場所で練習しなければならず、手技だけでなく、コミュニケーションも重視して練習しているということでした。他にも、本当の病院にいるかのようにとても設備が整っていて驚きました。

カーティン大学の医療系の学生はとてもレベルが高く、英語が十分に話せることが大前提で、授業中は皆が積極的に発言や質問をしたり、整った設備の中で技術やコミュニケーションの練習をしたりしてスキルを高めていきます。様々な施設を見学していく中で、コミュニケーションに関して、患者さんの思いを聞くことの重要性を学びました。患者さんに対してうまく伝えたり、説明したりすることは大切なことですが、何よりもまず、患者さんの気持ちや意思を聞くことが大切だと教わりました。世界にはこのようなレベルの高い学生がいること



を知り、私ももっと頑張ろうと思いました。

この2週間の中で、ホストファミリーの存在はとても大きなものでした。初めは、わからないことばかりで、英語もうまく話せない私に対して、ホストファミリーはとても親切に接してくれました。英語で話す練習をする機会を作ってくれたり、私の拙い英語を理解しようと一生懸命聞いてくれたりしたので、どんなに拙い言葉でも、自分から、積極的に話しかけたり、質問したりすることの大切さを改めて感じることができました。学生生活は残り1年半しかありませんが、就職して、看護師になってからも、この2週間の経験を決して忘れず、この経験を糧にして看護の勉強に加えて、英語の勉強も日々努力していきたいと思いました。



オーストラリア

カーティン工科大学短期海外研修に参加して 理学療法専攻2年 小坂 遥子

8月7日から8月23日にかけてカーティン大学夏期海外単位認定プログラムに参加しました。海外へ行くこと自体が初めてだったので楽しみな気持ちと同時に不安もありましたが、プログラムが終わった今振り返ると、とても良い経験をさせてもらったと思います。

授業が始まって最初の3日間はオーストラリアの基本的なことを教えていただき、「話す」ということを目的に授業をしてもらいました。

木曜にはNicheへ見学に行きました。日常的に使う assistive equipment を実際に見せていただき、その中で私が最も気になったのは目線に反応するコミュニケーションエイドです。見ることが画面のコンテンツにカーソルを持ってきてクリックする代わりになり、場面に応じて言いたいことを伝えられるということでした。赤外

短期海外研修に参加して

検査技術科学専攻3年 溝畑 知穂



線を利用して、パソコンの操作にも応用されているそうです。

二週目は施設見学が中心でした。学生が実習を行うためのクリニックでは、安く診る代わりに普通よりもかなり時間をかけるというお話で、とてもいい仕組みだと感じました。ここに来る患者さんは学生や教師、また、病院での治療は終わったけれどトレーニングやリハビリを手伝ってもらいたい人などだそうです。PTが開業しているクリニックでは、話をしてくださった先生が、患者さんが何を言おうとしているのかをしっかりと聞き自分の枠にはめようとしないこと、とおっしゃっていたのが印象的でした。木曜が最後の施設見学で、Fiona Stanley Hospitalへ行きました。この病院では3つ特徴的な点がありました。診察時に患者さんは同じ部屋に居て医者やセラピストがそこに来るため患者さんは院内を動き回らなくても良い点、一人の患者につき一人のアシスタントがつき全てのセラピストが言ったことを管理する点、PTが救急でも評価・治療をしている点です。

また、勉強だけでなく、動物園、チョコレート工場、ワイナリー、ロットネスト島などへも行き、オーストラリアの動物と触れ合い、ゆったりとした開放的な自然を体験することができました。

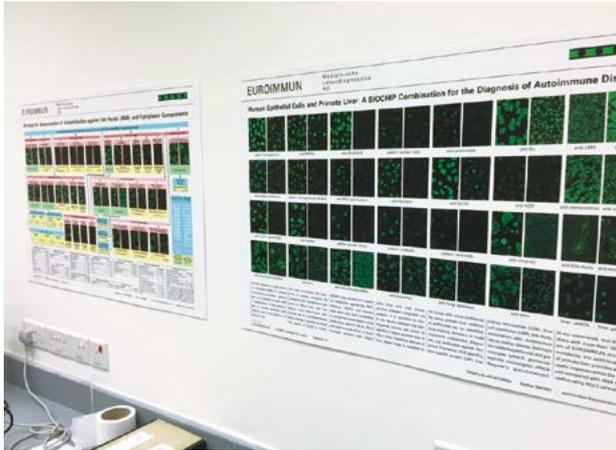
二週間で英語・PTの専門の授業、施設見学、観光に加えてホームステイと、かなり濃い体験をさせていただきました。英語力やコミュニケーション力のなさを感じたのはもちろんですが、日本と異なる医療の仕組みや文化に触れ、もっと他の国へも行って様々な体験をしてみたいと強く感じました。今回の体験をぜひ今後に活かしていきたいと強く思います。協力してくださった、手を貸してくださったすべての方々、本当にありがとうございました。

私は今まで海外旅行に行ったことはありましたが、海外における医療の現状を見学するのは初めてでした。まず、英語を聞き取れるのかということにすごく不安を覚えました。しかし、研修先で教えてくださる方々は分からないことがあれば、すぐにstop!と言ってもらえれば大丈夫と言ってくださったのですごく助かりました。英語に関して言うならば、1、2年生で学習した英語の授業がすごく役立ちました。

シンガポールで一番大きいSGHの見学に行きました。SGHは1782ものベッドがあり信大病院の約3倍を超えるベッド数で、1400人を超える医師が勤務しています。

次にSGHの検査部についてです。検査部ではSGHでの検体だけではなく、別の病院からの検体も送られてきます。検体にはバーコードや患者さんの名前などが記されており、きちんと確認することがとても重要とされています。そして、微生物検査室では学校で習っていない培地なども見ることができました。ウイルス検査室では授業で少しずつ触れただけで、まだきちんと授業が行われていなかったため、内容を理解できるか不安でした。しかし、顕微鏡を用い、図を書いて説明してくださったため、これからの授業に向けての予習になりました。ここではIF法やEIA法ウエスタンブロット法も行うそうです。免疫、血清検査室に行きました。ここでは、トキソプラズマやブルセラ、サルモネラ、レジオネラ、STDなどについて検査を行っていました。HEP2細胞やFITC標識抗体を用いた自己抗体検査を見せて頂き、セントロメア型やホモジニアス型など見るすることができました。最後に輸血検査室に行きました。ちょうど3年の前期に学習した範囲だったのですごく理解が深まりました。輸血に用いる製剤の保管庫や血小板の振とう保存など見せてもらうことができました。





また、KKHでの検査部見学もSGHと内容はほぼ同じでしたがこの病院は女性や子供のみの検体を扱っていることが特徴とされていました。どこの病院においてもポイントとされていることは同じであることを認識することができました。

私は海外に興味がありこの研修プログラムに参加しました。期間が1週間と短く、ホームステイではないため海外に初めて行く人でも行きやすくなっているプログラムだと思います。海外の医療現場を見る機会もなかなかないのでこの機会にぜひ少しでも海外に興味があるのであれば、行ってみたいと思います。

シンガポール

短期海外研修に参加して

作業療法学専攻2年 越前 春希

シンガポール研修に行って本当によかったと思います。自身にとって初の海外がシンガポールであったこと、研修で多くの病院見学や作業療法の現場がみられたこと、観光や食事などで充実した時間を過ごせたこと、全てのことが自分にとって刺激的でとても楽しく8日間過ごすことができました。

研修では実際に治療を行う現場を見せてもらい作業療法士がどのような考えを持ち、何を行っているかを

説明していただいたので座学とは違って非常に貴重な体験で勉強になりました。海外に行って一番驚いたことは、作業療法士という職種が日本よりはるかに知られていることでした。日本で作業療法士が理学療法士より認知度が低いことを海外で伝えたと、非常におどろいていました。シンガポールでは作業療法士、理学療法士、言語聴覚士が同等にリハビリを担当していて、その中でも作業療法士は日常生活へのアプローチ、手指や上肢などの機能訓練をしていました。また、作業療法に火傷専用の分野があったことはすごく衝撃的でした。

シンガポールと日本の違いには医療制度が大きく関係していて、それによって個々の病院の役割も違うのでたくさんの病院を見学できて非常に良かったです。老年分野の病院では日本の高齢者施設と似ている点が多かったです。二年生の現時点で学んでいることより膨大な作業療法の知識や技能を見せてもらい今後作業療法を学んでいくうえでの良い刺激になったことが自分にとって一番の収穫でした。

観光については到着してすぐの二日間でほとんど名所を回りきることができ、日程的にも内容的にも非常に満足しました。自分的にはナイトサファリとウォータースhowが楽しかったです。

買い物はいろいろ回ったあげくチャイナタウンが一番でした。チャイナタウンはいつもにぎわっていて中華料理はすごくおいしかったです。バクテイ、チキンライス、かき氷など食べ物はどれもおいしかったです。中でもタイ米でパラパラなチャーハンがシンプルな味付けでものすごく美味しかったです。

研修全体を通して、プログラムも充実していて非常に満足です。作業療法学専攻としては実習のある三年時にいくと今よりもっと知識もあり、日本との違いもより鮮明になるかとは思いますが、作業療法について学び始めの二年時に行くことも非常に価値ある良い機会だと思えました。



平成26年度 活動報告

平成26年度 保健学科同窓会からの 支援について報告

- 1) **電子天秤**：あらゆる分野の実習において試薬を調製する時に、試薬を秤量する必要があります。0.1mg単位まで正確に秤量することができる装置です。
- 2) **pHメーター**：あらゆる分野の実習において試薬を調製する時に、pHの測定と調整が必要になります。そのpHを測定する装置です。
- 3) **分光光度計**：化学反応で生成した色の濃度や紫外部に吸収を持つDNAなどの濃度を測定する装置です。従来使用している装置は購入後20-30年経過しているため、劣化が進み、修理部品がなくなっている

ので、順次新しくしております。

- 4) **トランスイルミネーター**：遺伝子検査学実習などにおいてDNAをPCRで増幅させた後、エチジウムブロマイドという試薬で染色し紫外線を照射すると、増幅したDNAが赤紫色に見えます。紫外線を照射し確認するための装置です。
- 5) **実習室用椅子**：従来の椅子は、あまり背の高くない学生さんが顕微鏡を見るときに伸びをしなくてはならず、長時間の観察がつかなくなったようです。これを解消するために、高さをさらに高くすることができる椅子を20台（形態系実習室と微生物実習室に10台ずつ）購入しました。（文責 理事 奥村伸生）



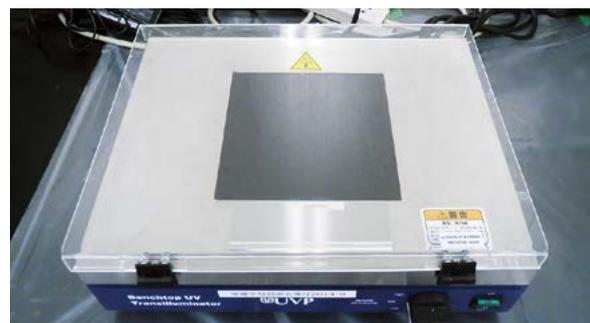
1) 電子天秤



2) pHメーター



3) 分光光度計



4) トランスイルミネーター



5) 実習室用椅子



羽山正義先生退職記念講演 平成27年2月10日(火)

平成27年3月末をもって、検査技術科学専攻の羽山正義先生が退職されました。平成27年2月10日(火)には最終の講義「臨床検査・研究・教育を支える染色標本の魅力ー染色標本作製は楽しいー」が、旭総合研究棟9階講義室において行われました。当日は、学内・学外関係者など大勢の方々のご参加をいただきました。



卒業祝賀会・優秀学生表彰 平成27年3月21日(土)

平成27年3月21日(土)に旭会館一階にて卒業祝賀会を開催しました。金井学科長と各専攻の成績優秀学生のみなさんです。



大学院修了祝賀会 平成27年3月21日(土)

平成27年3月21日(土)に大学院修了祝賀会を開催しました。第四期の博士前期課程修了者は13名、博士後期課程修了者は1名で、学位論文は以下の通りでした。

- ・滝沢 章さん
Role of the Programmed Death-1 (PD-1) pathway in regulation of Theiler's murine encephalomyelitis virus-induced demyelinating disease
(タイラームウス脳脊髄炎ウイルス誘導による免疫性脱髄疾患におけるPD-1 pathwayを介した炎症制御機構)

特別講演 平成27年7月4日(土)

平成27年7月4日(土)、「ALS的ハッピーライフ」をテーマに、酒井ひとみ氏(ALS患者・日本ALS協会理事)と川口有美子氏(NPO法人さくら会理事・日本ALS協会理事)の公開講演会を開催致しました。遠隔通信技術であるWEB会議システムを用いることで旭研究棟と地域保健推進センターの2施設を会場とすることが可能となり、盛会となりました。



総会記録

平成27年度信州大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日時：平成27年7月4日(土) 15:15～

場所：旭総合研究棟9階講義室A/B

1. 川上由行保健学科同窓会会長挨拶
2. 保健学科同窓会名誉会長(金井誠保健学科長)挨拶
3. 議長選出
信州大学医学部保健学科 西川良太氏が選出された。
4. 平成26年度事業報告および決算報告
下里誠二幹事より業報告があり、続いて柳澤節子幹事より決算について報告された。
5. 平成26年度記念事業特別積立金・地域保健設置積立金
柳澤節子幹事より報告された。
6. 平成26年度会計監査報告
小池聖子・小穴こず枝両監事より会計監査報告がなされた。
(以上についての質疑事項)
国際交流支援の具体的内容についての質問。これに対し金井保健学科長より講演会に海外から招聘する講師の交通費や保健学科の学生がカーティン大学、ネパール、シンガポールへの短期留学に際しての添乗する教員の費用のうち、大学の運営費で賄えない部分の費用を委任経理金として使用させていただいていることが説明された。これに関して事業報告の中での具体的な内容を示すことの要望があった。質疑のあと挙手により了承された。

7. 平成27年度会費納入状況報告書
柳澤節子幹事より報告があった。
8. 平成27年度事業計画および予算(案)
下里誠二幹事より事業計画(案)について、柳澤節子幹事より予算書(案)について説明があった。質疑なく上記3件について承認された。
9. その他
同窓会長の改選について奥村幹事より説明があった。
川上会長の留任が信任された。残りの役員等について会長に一任していただきたいとの案が提示され賛成多数で承認された。
また川上会長から地域保健推進センターの設置につき保健学科同窓会、各分科会合わせて200万円が寄付されていること、センター設置に際して寄附依頼のための名簿の提供があったこと、大学の卒業10年目のアンケート用名簿も情報管理の上、提供させていただいたことが報告された。
最後に、次年度以降美岳寮の耐震改修工事が必要となり、寄附の依頼のため美岳寮利用者である卒業生の名簿提供も行う予定であることが報告された。
10. 議長解任

平成26年度事業報告

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学国際交流推進
オーストラリア、カーティン大学短期留学プログラム他
- 3) 特別講演の開催
 - ・平成26年度 保健学科同窓会特別講演
日時：平成26年6月28日(土)
会場：信州大学旭総合研究棟9階講義室AB
(市民公開講演会：無料)
テーマ：アメリカにおけるダウン症の人のための医療最前線
～新しい出生前診断の登場をふまえて～
講師：ブライアン・スコトコー 先生
(マサチューセッツ総合病院医師)
 - ・信州大学医学部地域保健推進センター設立記念式典・講演会
日時：平成26年7月27日(日)
会場：地域保健推進センター 多目的講義室

テーマ：Well-being(幸福・健康)な地域づくり
講師：近藤克則 先生

(千葉大学予防医学センター)

- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
- 5) 卒業式・学位記授与式
 - ・祝賀会補助
 - ・卒業記念品の贈呈(集合写真)
 - ・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
- 6) 入試広報活動補助
 - ・オープンキャンパス会補助
 - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 7) 学生課外活動支援
 - ・新入生合宿研修補助
 - ・検査技術科学専攻のスポーツ大会
- 8) 学習環境整備
 - ・学部学生支援
検査技術科学専攻 実習室備品
- 9) 地域保健推進センター設置基金への寄付

2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 特看護学専攻：アルプス会・桐の木会
- 2) 特検査技術科学専攻：臨嶺会
- 3) 特理学療法学専攻・作業療法学専攻：州嶺会

3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第12号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ①平成26年度総会の開催
日 時：平成26年6月28日(土) 15:15～16:15
会 場：旭総合研究棟9階 講義室A/B
 - ②理事会の開催
日 時：平成27年6月16日(火)
会 場：保健学科中校舎2階会議室
 - ③幹事会の開催
 - ・平成27年1月20日(火) 17:00～20:00
旭総合研究棟7階会議演習室
 - ・平成27年5月18日(月) 18:30～20:30
保健学科 ゼミ室1
 - ・平成27年6月9日(火) 18:00～20:00
保健学科 ゼミ室1
- 4) 同窓会事務局の運営

5) 信州大学同窓会連合会との連携

- ◎平成26年8月3日(日) 第19回信州大学同窓会連合会役員会(奥村幹事)
- ◎川上会長が知の森基金後援会発起人/理事として出席
 - ・2014年10月27日(月) 信州大学「知の森」基金後援会設立発起人承諾
 - ・2014年11月11日(火) 信州大学「知の森」基金設立発起人会
⇒記者会見：ホテルメトロポリタン長野
- ◎川上会長が交友会理事として出席
 - ・2014年8月3日(日) 信州大学校友会設立記念式典/記念講演会/懇親会出席
- ◎川上会長が同窓会連合会幹事として出席
 - ・2014年2月9日(月) 同窓会連合会賞受賞候補者選定幹事会
 - ・2014年2月11日(水) 信州大学同窓会連合会役員会/懇談会
- ◎川上会長が地域保健推進センター設置基金管理組織 副委員長として出席
 - ・信州大学医学部地域保健推進センター設立記念式典/記念講演会/記念祝賀会

6) 信州医学振興会支援

平成27年度事業計画

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進(オーストラリア, カーティン大学短期留学プログラム他)
- 3) 特別講演の開催
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
- 5) 卒業生を迎えての懇談会補助
- 6) 卒業式・学位記授与式
 - ・祝賀会補助
 - ・卒業記念品の贈呈(集合写真)
 - ・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
- 7) 入試広報活動補助
 - ・オープンキャンパス補助
 - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 8) 学生課外活動支援
 - ・新入生合宿研修補助
 - ・学生への活動支援
- 9) 学習環境整備
 - ・大学院学生支援
 - ・学部学生支援
 - 理学・作業療法学専攻

2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻：アルプス会・桐の木会
- 2) 検査技術科学専攻：臨嶺会
- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻：州嶺会

3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第13号の発行
- 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ①平成27年度総会の開催
平成27年7月4日(土) 15:15～16:15
旭総合研究棟9階 講義室A/B
 - ②理事会の開催
年1回(5～6月)
 - ③幹事会の開催
- 4) 同窓会事務局の運営
- 5) 信州大学同窓会連合会との連携
- 6) 信州医学振興会支援

同窓会役員

名誉会長：金井 誠 (医学部保健学科)	検査技術科学専攻4名	大学院 (前期) 1名
会長：川上 由行 (医学部保健学科)	依田 将宏 (検査技術科学専攻学生)	黒田 千佳 (博士前期課程院生)
副会長：山崎 美幸 (松本市立病院)	赤羽 貴行 (安曇野赤十字病院)	大学院 (後期) 1名
理事：看護学専攻8名	新井 慎平 (医学部附属病院)	黒部 恭史 (博士後期課程院生)
中西美佐穂 (医学部付属病院)	樋口由美子 (医学部保健学科)	幹事：奥村 伸生 (医学部保健学科)
赤羽 公子 (医学部付属病院)	理学療法学専攻2名	下里 誠二 (医学部保健学科)
茅野 郁子 (医学部附属病院)	石塚祐太郎 (理学療法学専攻学生)	柳澤 節子 (医学部保健学科)
小林美恵子 (医学部附属病院)	杉田 勇 (諏訪中央病院)	百瀬 公人 (医学部保健学科)
三輪百合子 (長野県看護協会)	作業量法学専攻2名	横川 吉晴 (医学部保健学科)
坂口けさみ (医学部保健学科)	鈴木 朝香 (作業療法学専攻学生)	監事：小穴こず枝 (医学部保健学科)
浅沼 千晶 (看護学専攻学生)	井戸 芳和 (医学部附属病院)	務台 均 (医学部保健学科)
高瀬 里穂 (看護学専攻学生)		事務局：中山 秀子

信州大学医学部保健学科同窓会会則

信州大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医学部保健学科同窓会(以下「本会」という。)と称する。
- 第2条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- 一 会員の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 信州大学医学部附属助産婦学校、信州大学医学部附属衛生検査技師学校、信州大学医学部附属臨床検査技師学校の卒業生
 - ロ 信州大学医療技術短期大学の卒業生
 - ハ 信州大学医学部保健学科(以下「本学科」という。)の在学生及び卒業生
 - 二 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程及び後期課程(以下「本大学院」という。)の在学生及び修了生
- 二 特別会員
- イ 本学科教員
 - ロ 本学科元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4

分の3以上の議決により、これを除名することができる。

- 第9条 正会員は、細則に定める会費を入学時に納入するものとする。また、3年次編入生については編入時に4万円納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 1名
 - 三 理事 18名
(看護8名;検査4名;理学2名;作業2名;
大学院生博士前期課程1名、後期課程1名)
 - 四 幹事 若干名
 - 五 監事 2名
- 第11条 役員は、次の職務を行なう。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。
 - 四 幹事は、会長が委嘱する。
 - 五 監事は、総会において正会員の中から選出する。
- 第13条 役員は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。



第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
 - 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
 - 一 事業及び決算報告
 - 二 事業計画及び予算
 - 三 会則の制定及び改廃
 - 四 役員を選出
 - 五 顧問の推挙
 - 六 その他の必要事項
- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
- 第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。

- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
- 第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
- 第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第25条 理事会は、会長が召集し、議長となる。
- 第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金その他の収入をもって充てる。
- 第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則

- この会則は、平成15年4月1日から施行する。
- この会則は、平成16年4月1日から施行する。
- この会則は、平成19年4月1日から施行する。
- この会則は、平成21年4月1日から施行する。

信州大学医学部保健学科同窓会会計細則

1. 同窓会費は6万円とし、本学本学科入学時に一括納入することを原則とする。また、3年次編入生及び修士大学院生については、編入時もしくは大学院入学時に4万円を納入するものとする。ただし、本人からの申し出があった場合は、同窓会理事会が分割払いを認めることができる。
2. 本学科同窓会費6万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - (1) 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………3万円
 - (2) 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
 - (3) 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………1万円
 また、3年次編入生、博士前期課程及び博士後期課程の大学院生の同窓会費4万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - (1) 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………1万5千円
 - (2) 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
 - (3) 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………5千円
- 保健学科同窓会会員が博士前期課程および博士後期課程に入学した場合は、(1)在学生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関して1万5千円を納入すること。
3. 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
4. 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計担当幹事が通帳・印鑑を管理する。
5. 同窓会費の徴収は、入学時に行ない、徴収後は速やかに同窓会費支払者リストを作成する。
6. 会計担当幹事は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
7. 本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

附 則

- この細則は、平成15年4月1日から施行する。
- この細則は、平成16年4月1日から施行する。
- この細則は、平成19年4月1日から施行する。
- この細則は、平成21年4月1日から施行する。

編・集・後・記

NHK放送90年ドラマとして「経世済民の男」が放送されました。経世済民とは、中国の古典にある言葉で、「世をおさめ、民をすくう」の意味です。「経済」という言葉の語源になったとのこと。

第1回が高橋是清で、「人呼んで日本のケインズ」のキャッチフレーズがついていました。英語を自在に操り、日銀総裁、7度の大蔵大臣、首相を務めたばかりか抜群の遊び人。明治維新、日露戦争、

金融恐慌、立ちふさがる難題の数々を乗り越えた財務の天才とまで言われた人物でした。

お金は企業・景気にとって血液のようにたまたえられることがあります。同窓会の事業も、大学の教育・研究活動を支援するということでは同じような役割を担っているのかと感じた次第です。

保健学科 Y. Y.